•

Home Page http://www.kyoto.catholic.jp

4345

ŏ

V 月

İ か

D

19

による

ン 口

デ ナ

3 ウ

15、

感染防·

止と社会生活の

両 ッ 1

続

ています。

|粛生活を経

3

から.

始まっ

コ

ル

は

じ

めに

京都教区広報委員会 (編集長 村上透磨) 京都教区本部事務局 京都市中京区

河原町通三条上る TEL 075 - 211 - 3025 FAX 075 - 211 - 3041 honbu@kyoto.catholic.jp

カトリック京都司教

2 0 2 1 すべてのいのちを守るため 年 ナ時代を生きる信仰 司 教年 頭 書

Π

簡

パウロ大塚喜直

と思います。 る信仰 につい その根本から見つめ、

> 深め た





で、 を模索する いた生活 した多くの 1 八感染症 終息を祈 2 ない ブ 7 W 何 や な 2 か心の変化を感じたと思い のリ 0 気分になっ \widehat{C} 日々が りなが 人は、

た 一

一方で、

時

間

が経 その

過

しする

ます。

そ 中 ·ズムが

大幅に変化

目標をもち計

画を立る

てて営

6

ため

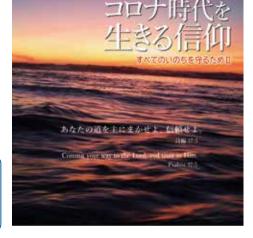
ネ

ガ で

テ

という では きが テ いっ れを言葉にしなくても、 1 に で ょ るため』 事態に 振り返る時間をもつことが ょ う の行動を続けながら、 でしょうか。 先実を信 人生の意味に 戸 惑いながらも、 わたしたちキリスト者は、 (教皇フランシ 仰で受けとめ、 信徒 つい 自分を見 の皆さん て問 ス 各自 コ コ つめ、 っす 口 できたの W 2 んはミサ かけ ナ時代を生 0 0 信 自分の・ たとえ 7 7 1 仰 では 9 0 コ 生 が (,) 中た 1) 口 止の 生. ナ



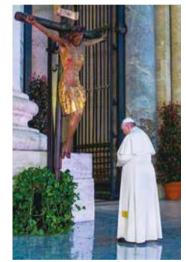


1. 神と静かに語りあ

わたしたちに何を言われるか、神わたしたちが何を言うかではなくだすことはできません。…大切なばなりませんが、騒音や興奮の中 う。 友です。 でコロ 3 っ た き合うことがなか す したちをとおして何を言 わたしの岩、 5 l わたしの魂は沈黙し こながら のように語っています。 たしは決して動揺しない わ 神にわたしの救い 神と語りあう時 沈黙について、 心の ナ たち わたしたちは神を見 奥に は わたしの救い、 あ あ り \exists る霊 返 な 々 ても、 間 か 3 0 マ て、 ·はある。 できませ を作りましょう。 的 れ 務 ザ な渇きに自ら向 われるか る日常に気を 8 静 ただ神に向か 1 を誠 神は か つけ (詩62 • 2 砦の な時、 ん。 テ 神 な 中 実に 中に見い いなけれ 沈 レ な が 0) いは、 神が 黙の サは ので わた 取 3

できません。 できません。 要とする者であることを知ることです。 ょう。 声を深め 自分で自分の渇きを満たすことは 今の まして、 3 0 わたしを究 生き方でい 歩 奥に は、 自分を救うことも 問 自ら 1, か が 1, け 0 てみま のだろう わ を必

> を。 わ 悩の たし てください」(詩139・23-24 3 心 どうか、わ を を 知 知っ 0 ってくださ 内 に てくださ たしをとこしえの · の道 W が わたし ある 御覧 か < を試 どうか ださ 道



2. なぜ怖がるのか、まだ信じないの

か

ことば、が嵐を鎮 ば、 ういにの 令が歩 てしまい 昨 のか」(マル ツ てこら わたしたちは恐れと不安に翻 招かれまし クにおび 年 3 鎮める時に弟子たちを 、「なぜ ・ます。 水の上を歩いてそちらに行 あ たときの えるわたし なたでし コ 4 怖 嵐の た。 皇 がるの フラ 中、 神 物語で へ の ン か。 シ イ を 信 で 工 ス 黙想 まだ信 ス 頼が わ は 叱 コ が 責 た は でする ~ L 湖 3 1 弄 な パ つされ 上を け じ れ に 1 ン 工 れよな デ 命 た ス 口

() せ てく できる特 時 イ **|** 工 .」(マタ スの 別な力を求めたの 口 力を信じたの 主に 1 水の上)と頼みます。 では で を歩くこと あ

ない 体の を離れ たち あってパニック なり、 びえるのでは でもよく考えてみると、 きるための、 キリストととも 、き日常の 救い た次の瞬 主に信 、のです。 かし、 は、 実は水の上を歩い してしまうわたしたちの 沈みかけます。 の力を信じて生きて の奇跡 主の計らいを信じるのです。 舟から降 頼せよ」 「あなり 主への なく、 なのです。 に な たの 信 丰 り、 闽 丰 (詩 37 りて水の 点に気が 頭を忘れ ・リス リスト ているような まるでコ 道 キリ 主イ 5)° を主 コ 卜 いること自リスト者が神 つい 上を歩 よう れ に 0 口 エ うちち ース に ナ 禍 ては ょ 口 にまかせ から て怖 わ つ で ナ なら に生 て、 にお す。 \blacksquare に

コロナ時代に生きる意味を問う

3

豪雨 今も 命 2 だれ 姓に 今年 被害 \$ 0 11 1 \$ な 産 が 10 7 1 多発し、 年目を迎 \$ います。 り 年3 運命 瞬 被災された人 月 にし 11 近 え ではかたづけら \exists 然災害 年、 、ます。 7 0) 失う 東 地 Ė とは 多く 0 震 苦し 台風 0 を 1,1 え、 す みは

へを 救

1

0)

歴

歴史とし - スラエ

7

語 0

り

ŧ

す。 たど

天

地 た

0

聖 書は

1

ル

民

が

つ

だれ そのようなことをお 転 口 かい もが いことが 凝問 な 神 り な なぜ がい に 出 思 来事 れ 起こる \overline{V} る るよう ح 許 ま な Ò す。 L ら 0 に 0 コ か、 口 な に 類 類 る ナ つ を襲う 神は 护 0 福 1) 0 か t 7 な 大 コ

るためのもので回心の機会を与めった数々の苦 は問の客 す。 てのまに全24イ 神創史 うす。 中に 30 の計 造主 神 一貌を最後 エス いるから .. の の機会を与え、 か 参照) も 一であ たとえ不条理と思えるような 計 は 画 け ることは が 居合わせ 画 中 る神が です 神 を妨害しては づ まで知ることは 毒 あ でわ を語 り、 苦難 けることは .. の 麦の であ (切なことに 秘められ そし り、 た意味 今の 神 0 始 重 たとえし つ 神 て、 出 0 8 た だれも たと :を真 コ 来事 計 た ち た思 禁物 なら 口 神画 救 解 に 思 ナ でき 剣 ~ は、 0 に W 話 褞 神 釈 で 11 な に 民 は 0) ず、 0 0 L ま す が 1, 夕 求 神 に 理 歴 仰 と教え ?隠され 襲い 意 計 ま か が 史に 1 が 0 8 由 a す。 ゆえ させ 民に う け \blacksquare 事 画 13 が ま を 柄 の か あ で

4 てキリスト - の受難 与

る

は、 被災し ŧ, ばに からら のかみ ること。 えが見つからず、 L どうし を 源 生 り 与える希望 計 が空しく、 いと答えられ わ で 神は ないの 全世界の 画 1, ないが、 れ の 苦し た 7 「があることを知る てくださるということ。 てこん ます る悪と罪 ベ 第三は、 ネ 皆 部 2 かと質問され 歳 で デ l さん 多く なに怖 を生 無 あ 0 次の三つのことを 1 0 まし 向こうに 駄 エ 0 り ク のそばにいると。 皇 では いつの 悲しみのうちにあ の人が支援を行 レ み 力 レナとい た。 は 出 を い思いを だけ な すこと 日か、 でし 第 て、 東 W か 世 いう少女 \exists 除 つくし つ が は、 は、 本大 が わた ょうと。 たことが分 L この苦し 知 たとえ答 な できると しみと愛 神 け か つ つ L L も分 7 はそ てほ やし つ れ 5 2 2 1)

き、 1 自 数 8 的 1 ることが 5 Þ パ 、の苦難 ウロ 苦難 ス の体験をもとに、 \$ は、 0 が 0) 中 味わう苦難と見なし で できると言 その は で 遭 なく、 神 1) 生涯 から な な が ぜ 0 1) 5 なら 分 ます 難 耐 慰 6 え難い 0 に 8 を見 う あ $\widehat{\mathbb{I}}$ たか る人 5 1難を生 ほ コ 出 どの IJ を慰 した が 5 る 個

> す。 受難 でキ 1 む多 1 わ IJ たし ス 0 < 1 6 コ たち 自 口 苦難に 身 ナ کے b が 禍 苦し を つ に 耐 な 互. 1) ただき え抜 が 15 h つ り 0) で 7 < 祈 お 5 ま 力 0 B 丰 IJ 0 れ $\widehat{\mathbb{I}}$ 中 ょ ス る 類 1 で、 コ 0) 1] 0) で 中

受 け る 秘 跡 ょ IJ 生 きる 秘

5

愛の とい と命 を示 られ 跡 す。 お れ らい、 ぁ 愛 \exists ば な を つ L なた 1, 実行と じら たち う ľ ました。 さ 制 0 は L サ ならない。 イ 7 サ 実践 は たの あ \exists 第 $\langle \cdot \rangle$ 定 工 中 がたも互い てスは最 ì 中 なたがたも れ わ を洗 かかか 日 0 ま で れ 固 弟子たち 会う に ニ ある」 女 口 う」とい 命 l 7 私が 目は コ わ 後 ような意味 う 令 た。 Ŋ IJ れ 口 つ 0 試 る は に を (_∃ があ ン 晚 7 0 聖 つ 朝 するよう 練 典 足を洗 0 私の いなたが 卜 う 記 体 の 中の W 7 0 礼とか か 第二 ハネ 足 3 拝領 ま 11 聖 0) のとき聖 念とし を 記 を洗 体 1 サ す を経 0 たにし 24 念とし W で 13 に そ す 0 0 工 合 く考 ご聖 ると言 命令 か 頂 れ 秘 ス マ • 7 わ 논 を ザ 14 わ た 体 を 行うし 後、 たと な 命 て行 ž 体 1 は は 0) 15 け ま わ 秘 に わ

に生きる人でした。

中止

という経験を通

過して、

が

神と人との

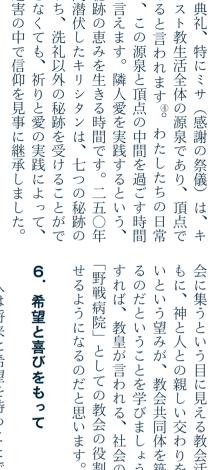
親しい

交わりを生きた

教会共同体を築き上げ

うょう。

間潜伏したキを言えます。 追害の-う あると言われ IJ ン スト この の恵みを生きる時間です。 中で信仰を見事に継承しました。 洗礼以外の秘跡を受けることがで たキリシタン 隣人愛を実践するという、 祈りと愛の実践 にます .. の シは、 わ たしたち に つ によっ の



ての教会の役割を果た

社会の

中

での

望と喜びをもって

状況で、 がら、 で、 す。 め、 IJ 神からの慰めと生きる力が与えられ みを経験する人自身が、 味をすぐに掴むことはできません。 日を信じることで、 て、 ていくのです。 ついて考えましょう。 今の時 、は将 あるいはその最中 コロナ感染の完全な終息が見え 意欲的に生きることができます。 時間 神の計らいを信じる、 苦しみを乗り越えるたびに、キ 来に希望を持つことではじ !をかけて苦しみの意義を見出。る人自身が、神に問いかけな を意味あることとして受け は強く 丰 ・最中でも、いつか必ず苦しみが始まった時点 リスト者の希望です。 今日を生き抜 の行動を活気 人は苦しみ ていきま 希望 くの 苦し ると の意 な 明 1,1 で 8

なく、 はあ 薦めることができたのです。信仰による えて「い てい 喜びは、 パウロは自らの苦難の体験をもとに、 れている、 る喜びです。 い」(Iテサロニケ5・16-18) と人 を支えてくれ と呼びかけ、 りません。 ます(ヨハネ15・11参照)。 の喜びを満たすと約束してくださ つながっていなさい」 わたしたちもキ 苦難や悲しみが消えさることで 働かせたいと思います。 つも喜んでい てられた状態の 苦難 どんなことにも感 ます。 コ 神とのつなが の中でも喜べる力を 口 ご自分の喜び ナ禍におび 丰 、なさい。 リスト リスト 中 で <u>Э</u> えるの から約 りに安堵す だから、 謝 絶えずど で は たし l ネ 15 わた 東さ では 八々に なさ わ 掘 祈

神 の 御 心に適った悲しみ

起こし、

ます。 改めを生じさせ、 り消 らします」(Ⅱコリント7・ パ しみの体験から人が回 されることの た悲しみであり、 心的な生き方から ウ 出 神の す なら 御心 ば、 に適っ 世の悲しみは死をも ない救いに の 悲しみが そ 救いの喜びをもた 神が望まれ れ た悲 は 心 10 神 通じる に至 L あると み 0 御 3 しもた い取い

まざまな希望を吸収し、

失望から守



してくれます。そうで

はなく、

いとはなら、 神の視点から見るならば、 ちをもたらしはしません。 四方から苦しめられても行き詰まらず、 を残す 方に暮れても失望せず、 け入れることを拒み、 ない 口 入り口となるに違い 苦難は苦難のままに は 世の悲しみとな 苦しみに追 (重なる苦難に出 1) 不平の り p 虐げられても あ コロ きっと未知の ŋ 永遠 りません。 わ 生 り ナ禍も、 2 のを語る ても、 0 涯 いの 人を に 悔

せるのです」(ヘブライ す 0) そ鍛錬というもの たしたちを勇気づ とができまし な 見捨てられ ハ々に、 ではなく、悲しいも 後になるとそれ 義という平 コリント4 た。 打ち倒されても滅 は ヘブライ けてくれ 和 • 8 9 に満ち で鍛え上げら のと思われ 12 |座は喜ば -書も います。 11 た実を結 と言うこ 同 ぼ る L 様 ぉ れ 0) W に され ょ わ

8. 新しい生活様式

目を向 託 け 生きている恵みを深め、 うにと、 5 十字架からわたしたちに問いただし りません。 0 スタイ けるエコロ う視点です。コ あらゆるも n 3 こます。 れた使命を重く受け止 に美の -ルと日 以 けるようにと、 フランシ 前と同様の生活水準を求めるこ わ 生かすようにと」 これからの生活を考え直 たしたちを必要とする人々に 教皇は呼び ジ の 種 力 々の行動 る共同体 は を蒔くという創造 ル 口 ス ナ禍 つ な回心を深め、 コ な 1 0 が る見直 わたしたちの にあ いかけ 考え 感謝をも つ ***** ĺ ている」 ります。 8 教皇が呼びか 0 なけ てこそ、 マ 基 次世代 ライフ 「主は 本 れ 主 لح はすよ てお て受 中 ば か は な

> 切な 当に 単に 無用 服 いて、 ます えました るかを知っ こころ豊かに生きるために、 をせず、 しょう。 であ 住居、 でき 0) で人間らしく生きる勇気が求めら 感染を予防 必要なも ***** かをよく考え、 金銭のみならず、 り、 無駄 57 イエスは、 (マタイ6・ ておら 余暇等におい 夏。 わ で 0 0 ない生活をすること たしたちに何が必要であ する生活 が 個々人の れる御父への ょ 何かを確 明 う。 32 それを選び取 日のための心配 時間、 て、 では コ 生活 口 認 もう一 なく、 何が最も大 ナ に頼を教 食事、 してみま 中 度本 ょ に は 衣お

希望と信仰と愛の抗体を持

9

うに

ましょう。

はこの 束を信じ、 死か に、 方向 したがって、 たところに ることの希望の根拠が、 ?らも解: 人を受け 社会を福音化する努力を促します。 付けを見出すことができます。 味 IJ ź ト 世界で 人生 愛の力で社会のさまざま 放さ あるからです。 どんな困難に出 他者の は れると 上に目的な 信仰に 最終的 ために生きるよう ょ 1) この世 う つ て、 L 丰 は [あっ かも、 悪 1) 界を超え から ,の歴 ス 卜 7 \dot{O} · な 課 約 **t**

題 ま

全体が一 ら、皆 ということに気 発展を追求することであ L になるよう招かれ、 かけが 人になろうと呼び (D わたしたちは 緒に ・ます。 1 「希望と信仰と愛の抗体 べえの かし つになり、 のです。 マ8・ いるのです」(*25頁)。 この 同じ ない存在であ 同 時 づきまし 28)、ともに生きる地球 その 船の に、 「万事が益となるよう 持続 かけます 互いの慰めを必要と に 課題は、 Ŀ 乗 コ 小り合わ り、 元に、 可 り、 能 口 ひとりが その ナ で全人的な 人類家族 皆が * せ たしたち ために 56 7 だか を持 頁。 いる

http://www.kyoto.catholic.jp



2021年1月1日発行(518号)

10 義と愛と連帯の必 須 の抗

いていくのです。教皇はも傷つきやすい人を中心れまで以上に人類が連帯デミック以前を取り戻す ある人々が、コーから見捨てられた そして、 帯と ため 寄り添うこと」だと言われます(*5%)もにすることは、必ず兄弟姉妹の受 す。 探し 恐怖により、 名付けられ 険な境遇に追いやら という危険 てはならない わたし まで以上に人類が連帯を示し、 の行 思いやりを必要としています。 のように 是帯の必須のたちが持 世界各地の難 動 います。 穴です。 は、 人々の 特定し 偏見や差 う と訴えら た状態の 口 何よりも ナで 必ず兄弟姉妹の受難に 教皇は「主の受難をとべを中心にした社会を築 すべ たが ń 間 つべき抗 抗 か て 別が ħ いっ すのではなく、 7 民のように、 に伝播する不安 体」(* ます。 社会 まま緊急事 る風潮があ いることを忘れ 次広が そう困難 W 体を、 0 0 その 57 中 ちを守る 頁 もっと 7 「正義 で ため 態に 以前 りま で危 頁。 パ 0) 連

こととして苦しむことの たしたちは、 自分や自 休業や たし たち 玉 自 |だけの安全や安心にこ 0) 粛 周 0 の苦しみを自分 の中で助け合う人のできる力を持っ りに たくさん け合う人 0

> の霊 人に寄 合って、 生きていき 11 性 するこ 新しい生活様式を受け入 る 的派 は、 ゴ 痛みを分かち合 とが とも たいと思い 助け合 に住むことで 必要です。 ム を排 ・ます。 C) 譲 れ り合 コ が 手を 口 7 とも ₩. ナ 1 時代 な 場 取 にがの

愛 の炎を燃え上がらせてくださ

変わら けるの きるの 触れ、 底的 め の ロナ時代に居合わせたからこ 愛を実践 0 つ わ 新しい生活様式を模索する努力を続るを実践し、全人類のいのちを守るた時代に居合わせたからこそ、真の隣 信仰を求め て、 です。 個々の な っです。 生き抜くことによ V) たちキリスト こうして、 異常 信仰を深めて 時代を超えた信 る ので な状態から逃避 はあ って、 コロ り ませ 仰 ナ時代を徹 くこと 昔も の神 口 でするた ナ が 禍 秘 で コ に

霊を通して、 くび なた 燃えたたせるように勧め パ ウロ $\widehat{\mathbb{I}}$ ょうの霊ではなく、 に与えられ 類の テ は、 わ モ 救 たしたちにくださっ テ テモテにこう言 わ 1) 1 たしたちは、 は 7 つな いる神の賜 6 7-700 が のます。 って 力と愛と思 わ す 物 、ます。 たし ベて ま 神 たの は、 慮 0 人聖救で分 あ おび

をの

とが

できるの なく、

っです。

0

玉

ためにできる自分の使

命と 神

ようにし

てキリストに仕える人

んは、

れ

々

頼されます。

だから、

れ

3 すこ 0

食

1)

では

る義と平

和

CK

なの

です。 に

0)

よっ

て与

を受けたのです。 17-19)。このため

ため

わたし か

は マ

め 平 喜 よ 和 ば

-和や互 ようで

1,1

向

に役立つことを追

は

あ 0

1) ソませ 上

h

<u>О</u> たち

1

14 V

求



http://www.kyoto.catholic.jp

コロナ時代のミサ風景 マスク着用、聖体拝領前に消毒、参加人数の制限 (司教座聖堂河原町教会)

マ

あ

口

12 む人の慰め、 母マ リア

いうシールました。 るキ るこ ナ禍 抱 護 ア、 L か ように、 3 立 たきし リア、 を人 と痛みを抱 Ś に 5 ナ ょ つ ました。 つ 1 わたし わたし クウイ より頼るの過酷 シメ 伸 リストとともにおら に 全世界が苦しみと不安に襲わ ていまし 工 ハびとの め ス ださい。 ある人類の中で、 オンの マリアもその 苦しむあなた ル てくださ 貫かれます」 0 わ 神の お日 たち み、 たちを救 ス そ たしたちの た。 \bar{o} 0 悩み苦し れ え、 母 恐ろし 世界 「 々 の に、 助 預言の実 ア は、 神 け 0 1 わたしたちの りを求め あ 中 の た 的 \$ 工 あな 神が全能 む 大流 で、 (i) 救 てくださるよ 0 生 8 ス い感染症 わ 願いをとどけ 苦しんでく 者 が す 現でした。 涯 ***** カ 2 • た自 ベ の慰めで の業に参与さ を 耐 日 え忍 ての子らを 通 一架の 身 0 0 のみ手を 大流 35 \$ て苦 ば IJ 、ださ あ コ れた る

聖霊的 参照 ンス、 るセ センス、

参照箇所。 注 * 亨 は、この本から 0 引

②参照:片柳弘史 なさ 方』(ド V · マ ボスコ ザ 1 『聖なる者と 社、 テ 2 サ 0 0 生 な

1 8 力 1 1 7 IJ ッ 1 ク 8 2 1_° 力 テ 丰 ズ

参

1

月

1

IJ

T

0

③ 参 ① 2 0 央協議へ 参 ミッ キリスト 照 照 照 セン á 勅 ク後の ン 1 げ 6 実践 教皇 教皇 典 希望 会 センス、12マリア的セ 礼 統合的 3 認識, 八格的 2 0 2 10 共同 憲章 信仰 12 に 選 フランシスコ 的センス、 による救 的 ネディクト 沢 0 セ セ 年 10 ンス、 はするセ 0 体的 センス、 ン 仰 力 ス 5 1 セ 頭 セ 7 35 \ IJ つパ 秘跡 ン -救済 ッ 9 ス ス、 ン ク ン 的 40 用 る 11 判的 セ 中デ す

大塚司教の1月のスケジュール

新型コロナウイルス感染症の影響のため、スケジュールが変更される場合がありますので、最新の情報は京都司教区のホームページにてご確認ください。



1月のお知らせ

教 区

テーマ:コロナの時代に聖書を生きる 一混沌への光を探して一 第4回(全5回)

講 師:中川 博道師(カルメル修道会)

日 時:7日承 10:30~11:50 申込者限定配信 オンラインで開催

詳細は聖書委員会まで

広報委員会

お知らせに載せたい情報は、原稿締切り 日までに教区本部事務局宛

メール/honbu@kyoto.catholic.jp または Fax/075(366)6679 に発信者のお名前を明記の上お寄せください。

※ 3月号の原稿締切り日は1月25日 見です。

本部事務局

◆「日本のカトリック教会における感染症

対応ガイドライン」
2020年11月1日日本カトリック司教協議会発表カトリック中央協議会のホームページに掲載されています。



◆司教年頭書簡 外国語版(英語版、スペイン語版、ポルトガル版、タガログ語版、韓国語版、ベトナム語版)は、京都教区のホームページに掲載しています。各小教区内や、まわりに必要な方がおられましたら、ダウンロードしてご使用くださ

スマートフォンなどで右の QRコードを読み込むと、 京都教区のホームページか ら読むことができます。



諸団体

京都カトリック混声合唱団

練 習:10日 ① ・31日 ① 14:00 洛星宗教研究館

ミサ奉仕後 河原町教会聖堂

コーロ・チェレステ(女声コーラス)

練 習:14日承・28日承 10:00

河原町教会2階楽廊

変更の場合は連絡網にて

カトリック京都働く人の家(九条教会内)

定例会:10日 15:30~17:30

対 象:15歳~35歳の方 どなたでも

問合せ:090(8207)1831 瀧野

聴覚障がい者の会

手話表現学習会(聖書と典礼)

日 時:28日承 13:00~15:00

場 所:希望の家地域福祉センター

京都市南区東九条東岩本町31-10

事務局: Fax/075(361)9082 阿野

感染防止対策の上ご参加ください。感染 症の蔓延状況により中止となる場合もあ

ります。問合せは事務局まで

心のともしび ラジオ番組案内

(全国34局で放送)

KBS京都

ラジオ関西

勇∼逾 朝5:00

申 朝 6:05

1月のテーマ

「新たな出発」



点訳版「京都教区時報」〈無料〉ご希望の方は点訳 ネット「レジナ」代表嶽崎(たけざき)裕子さんまで お申込みください。

Tel • Fax/079 (431) 8601